

朱七だより 臨時号

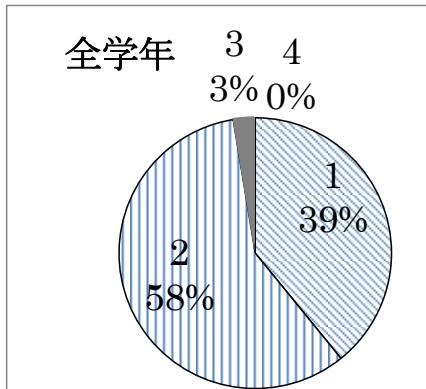
日曜参観（6月4日）のアンケート結果について

「朱七だより7月号」で、日曜参観のアンケートについて、保護者の皆さまよりいただきました回答の一部を紹介しました。この「朱七だより 臨時号」では、他の項目についてもお知らせします。

1 よくあてはまる 2 あてはまる 3 あまりあてはまらない 4 あてはまらない

【設問1】

子どもたちは、学習に意欲的に取り組み、生き生きと活動していましたか。

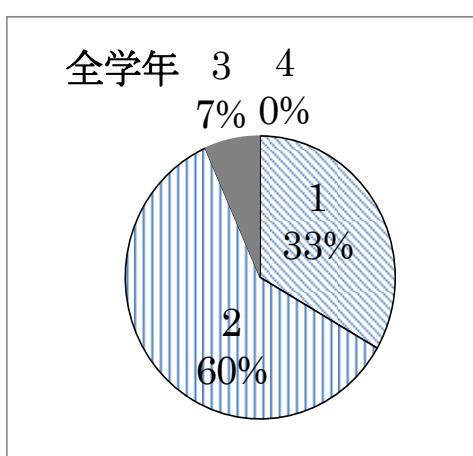


「1 よくあてはまる」と「2 あてはまる」を合わせると約97%の方が、子どもたちが意欲的に学習に取り組み、生き生きと活動していたと回答してくださいました。手を挙げて積極的に自分の思いや意見を発表していたり、笑顔で学習に臨んでいたりする子どもたちの様子を評価してくださっています。その一方で、「3 あまりあてはまらない」という回答が3%あります。学級の中で、手を挙げて発表する子どもが限られていたり、集中力がなく私語をしている、よそ見をしているなどといった子どもの様子が見られたりしたというところが根拠のようです。

学級の全員が1時間の授業に進んで参加し、活躍できるように、指導の計画を綿密に立てていきます。子どもが「楽しい」「分かったからうれしい」「もっとやりたい」と言えるように、指導法の工夫を図っていきたいと考えます。

【設問2】

分かりやすいめあてが設定され、一人一人がしっかりと学習している授業でしたか。



「1 よくあてはまる」と「2 あてはまる」を合わせると約93%の方が、分かりやすいめあてが設定され、一人一人がしっかりと学習している授業であったと回答してくださいました。めあてが分かりやすく、一人一人が意欲的に学習している様子や、子ども同士が協力しながら学習を進めている様子から、そのように回答してくださっているようです。

その一方で、「3 あまりあてはまらない」という回答が7%あります。めあてそのものが理解できていなかったり、授業中の態度がよくなかったりする様子を指摘されているコメントが多くありました。また、鍵盤ハーモニカの演奏や、図工の工作での個人差が気になるという声もありました。

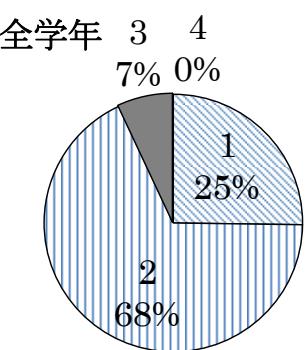
「めあて」は、教師が「はい、今日のめあてはこれですよ。」と提示するのではなく、子ども自身がその一時間の学習の目的を明らかにし、向かうべきゴールの設定ができるように、毎時間工夫しているところです。学習に集中できていないということは、向かうべきゴール（めあて）がはっきりしていない場合も考えられます。子どもたち一人一人が、主体的に「めあて」をもって学び、自分の学びを「振り返り」できるように、個々に応じた支援をよりきめ細やかにていきたいと考えます。

平成29年7月21日

京都市立朱雀第七小学校
校長 鶴飼 洋子

【設問3】

保護者の皆さん、参観の感想をお子たちに伝えていただきましたか。（褒めたり励ましたり）



「1 よくあてはまる」と「2 あてはまる」を合わせると約93%の方が、参観の感想をお子さんに伝えていただいたようです。たくさん手を挙げていたこと、積極的な様子で学習していたこと、人の話を集中して聞いていたこと、友達への気遣いができていたことなどを褒めてくださったようです、一方、参観して気になられたことも感想として、子どもに伝えたというコメントもたくさんありました。例えば、よそ見や姿勢の悪さを注意した、分かっているならもっと手を挙げようと促した、などです。帰ってからすぐに褒めたところ、子どもがうれしそうだったという声もいくつかありました。

学校生活の中では、子どもたちは様々な場面で「いいところ見つけ」をして、褒めたり褒められたりする経験をしています。感想を伝え合う経験もたくさんしています。子どもたちは褒められたり励ましてもらったりすることで、さらにがんばろうという気持ちを高めています。ご家庭でも、子どもたちのよいところやがんばったところを、タイミングを逃さず、しっかりと褒めてあげてください。あと一歩の勇気が必要な場面では、タイミングを逃さず、温かい声掛けをしていただくことが、子どもの背中を押すことにつながります。

朱七校では、自ら進んで学習する子をめざしています！ ～確かな学力を身に付けるために～

私達教職員は、子ども一人一人が主体的に学ぶ授業づくりをめざしています。それは、毎日の一時間一時間の授業を大事にすることです。子ども主体の授業にすると、どんないいことがあるのでしょうか。

受身的な授業と主体的な授業を比べてみましょう。どこが違うでしょうか？

受身的な授業

教師が説明し、教師の問い合わせに答える授業
静かに話を聞いているが、受動的な授業
教師と一部の子どものみが発言する授業
理解することが中心の授業

主体的な授業

子どもが主体的に活動する授業
子どもの反応が多く、能動的な授業
学習者である子ども全員参加による授業
学習者の興味・関心を高める学習の実現

授業の主体者は当然子どもであるべきです。教師が話すことをただ聞くだけでは、本当の力は身に付きません。そこで、子どもの主体的な学びを実現できる授業をめざしています。

では、アンケートで保護者の皆様に問いかけている子どもの姿はどういうものなのでしょうか。

生き生きと活動している？



しっかりと学習している？



- その1. めあてが子どものものになっている。（「何のために…するの？」「…するためには、～したいな。」）
- その2. これから学習計画を、子どもと共有している。（前の時間にしたことと、今日の学習がつながっている。今日学習したことが、明日以降の学習につながることで、やってよかったと思える。）
- その3. 自ら自分の思いや考えを表現する場がある。（話す、話し合う、書く等を子どもが行うことができる。）
- その4. 子ども同士の学び合いの場がある。（友達の意見を聞いて、自分の思いや考えが深まる、広がる）
- その5. 自己の学習を振り返る工夫（「何ができるようになったか」「どのような学習が役に立ったか」等、自分の学習の様子を自分で評価できる。）

こんな授業をめざしています。子どもの姿を見てください。



【設問4】

2校時は全校一斉に道徳の授業を行いましたが、いかがでしたか。感想をお聞かせください。



- 相手の立場を思いやることがわかりやすく教えられていきました。
- 授業を通して心を育てられると思います。大事なことなのでうれしく思います。
- 道徳は必要なものなので、かたよらず教育していただけるのがよいです。
- 道徳で教えていただくことは社会に出るためにすごく大切なことばかりなので、ていねいに教えていただけてうれしいです。
- 魚やお肉…命をもらって食べていることを改めて話し合いをすると、命や食べ物の大切さがわかりよい授業だと思います。
- 自分自身に置き換えて考えることができました。発言も活発で、自分以外の意見を聞くことができたのもよかったです。
- 子どもたちがこの授業を自分たちの日常に置き換えて考えるようになればいいなと思います。
- 意欲的には取り組んでいないように見えましたが、身に覚えがあっただけに静かに聞いていたようです。心にはひびいていたと思います。とてもよかったです。
- 子どもたちが多く意見を出し合って、一方の立場だけで考えるのではなく、相手方を認め合うことなど、自分たちで考えられていてよかったです。いじめなどがないように、自らも考えていくことにつながってほしいです。
- みんなそれぞれが自分自身の意見や考えをしっかり発表、発言していました。
- △内容はよかったです、子どもたちの意識に浸透させるには、もっと普段の生活に置き換えた場面を想定した内容を盛り込んだ方がよかったです。
- △登場人物の気持ちを児童に聞いたとき、手を挙げる児童が少なかったのが気になりました。（他の授業に比べると）
- △子どもは一度も手を挙げず、内容をどこまで理解しているのかわかりませんでした。
- △数年後の道徳を評価するというのはいかがなものかと、私は思います。
- △1時間でまとめるのは難しいテーマだったと思います。2回に分けて、もっと考える、話し合う時間をとった方がよいように思います。時間切れで、無理矢理模範解答を引き出すようにもっていっても意味がないように思います。
- △今回は一斉に2校時でしたが、次回は低中高で時間をずらして行ってもらえると、しっかり参観できると思います。兄弟がいて、1時間見られなかったのが少し残念でした。

子どもたちの「豊かな心」を育成するためには、道徳教育を充実させることが大切であるという認識のもと、道徳の授業内容をしっかりと吟味し、指導法の工夫を図っています。子どもたちが道徳の授業の中で、お互いの考えを交流して、多様なものの考え方を柔軟に受け入れる様子が見ていただけたのではないかと思います。

しかし、道徳の教材（お話）によっては、子どもたちの日常生活からは少し想起しにくいことであったりする場合もあるので、子どもたちが発問に対する自分の考えがまとまらず、手を挙げられないということにならないように、発問を十分に工夫しなければならないと考えます。

平成30年度より道徳が教科となり、それに伴い評価をしていくことになります。子どもの成長を見守り、努力を認めたり、励ましたりすることによって、子どもが自らの成長を実感し、さらに意欲的に取り組もうとするきっかけとなるような評価が求められます。そのためにも、道徳の授業の中で子どもが考える場を大切にしたいと思います。

また、兄弟学年がおられるご家庭がありますので、休日参観の道徳の授業に限らず、低中高学年が同じ時間に重ならないようにできるものにつきましては、今後配慮して計画してまいります。

【設問5】

4校時は引き渡し訓練を行いましたが、いかがでしたか。感想をお聞かせください。



- 実際の混乱を考えると、訓練を重ねることが必要だと思います。
- 休日なので、父親が訓練に参加できてよかったです。
- 訓練をしておくことで、流れがつかめたので、いざという時に役立つといいなと思いました。
- いざという時のために練習できてよかったです。親子で話し合えるいい機会でした。
- 以前は平日で参加できない保護者の方が多かったですが、休日参観とあって、参加人数も多くて訓練らしい訓練だったと思います。
- 具体的に考えるよい機会になりました。（実際に起きたら、迎えに来られるかどうか。学校なので地域の方が避難で来られているのかも。）
- △災害が発生した場合、子どもたちは訓練していて、統制がとれると思いますが、必ず保護者側が混乱し、統率できない状況になると危機感を覚えました。
- △運動場より体育館の方が、待つには、親も子もよいと思います。
- △災害があった場合を考えると、段取りや連携、スムーズさの点で改善の余地があると思いました。
- △保護者も学年ごとに整列した方が、もう少しスムーズに引き渡してもらえたのではなかろうか。
- △段取りが分かりませんでした。
- △少し時間がかかりすぎていた気がします。確認作業がもたついていたのが残念です。
- △訓練をするなら、実際の引き渡しがスムーズになるように、校門に近い東側で訓練をした方がよいように感じました。

「引き渡し訓練」は、子どもたちが学校で過ごしている時間帯に京都市内に震度5弱以上の地震が発生した場合、保護者の方々に学校まで子どもたちを引き取りに来ていただく手順を理解していただくことを趣旨として、実施しました。多くの保護者の方々が訓練に参加していただくことで、その趣旨に迫る訓練にすることができました。

保護者の方がスムーズに並んでくださったことや、兄弟がおられるご家庭では下の学年のお子さんの方にまとまることで、少しでも早く引き渡しができたことはよかったです。

ただ、学年に関係なく並んでいただくことや、引き渡しの際に名乗っていただくということが、保護者の方々に周知できていなかったことが課題となりました。

事前に「引き渡し・引き取りカード」に記載していただいている方にしか子どもたちを引き渡しできないため、保護者の方々から名乗っていただくと、「お名前を確認させていただきます。」といったやりとりも短縮されるのではないかと思います。また、今回の訓練で、さらに引き渡しが可能である方に気付かれることもあったようですね、カードの加筆・修正にも対応させていただきます。

災害は、今回のように晴れている状況で起きるとは限らないので、雨天時も想定しなくてはなりません。今後の訓練では、天候も含めて、どういう状況を想定しての訓練なのかを事前に保護者の方々にもしっかりとお伝えしていきます。また、実際災害が起きたとすれば、おそらくもっと混乱することでしょう。そのような中でも、確実にお子様を保護者に引き渡すためには、臨機応変の対応が求められます。このような訓練を通して、私達教職員一人一人が判断しながら対応する力も身に付けたいと思います。

本年度の日曜参観アンケートについて、137件の回答をいただきました。ご協力ありがとうございました。今回のアンケートでいただきました様々なご意見を、今後の学校の取組に生かしていきたいと思います。今後ともご協力・ご支援をよろしくお願ひいたします。